

の性格を作つた有力な素因は、發起人の顔振にあつたよ  
うである。

大正八年八月十六日帝國ホテルに於ける發起人会に招  
待された者は、有爵者、貴族<sup>院</sup>議員、學者、宗教家、  
新聞記者、實業家、工政會、勞資研究會、地方長官、陸  
海軍所轄工廠、日本工業俱樂部會員、その他政府關係者  
等合計七百八十七名に及んで、このうち四百余名の同意  
を得た。その範圍は全國にわたり細心の注意を以て各階  
各層を網羅した。しかしその發起人の選定は地方長官に  
委託され、標準は「富豪若しくは有力なる人士」というに  
あつたので、勞働運動者側は、自然範圍外におかれる結  
果となつた。だが勞働運動者を初めから閉却したのでは

なく、當時その組織と發達せし勞働運動と軌道に乗つて  
いれたので、これが選定には可なり苦心したようであ  
るが、兵庫縣知事と大阪府知事に宛て、關西勞働同  
盟會<sup>ら</sup>がに大阪鐵工組合等から勞働者の選定方を依頼  
した。これに對する知事の回答は消極的であつて、勞働  
組合運動者または勞働爭議關係者を好まないことか觀れ  
ぬ、結局勞働者側代表者として、大阪府から一名、東  
京市から二名を招待することにしたのであつた。かくし  
て形成された協調會の性格は勞働者側からは、と云すれ  
ば「資本家的なり」という反感を招き、資本家側からは  
豫期に及すると非難する者を生じ、長く両者の批判を  
うけた、終戦時に及んだのであつた。